

松下幸之助記念志財団 研究助成

## 研究報告

(MS Word)

【氏名】猪岡 愛佳

【所属】(助成決定時)

東京大学大学院 総合文化研究科国際社会科学専攻「人間の安全保障」プログラム

【研究題目】

社会的連帯経済による貧困削減への可能性 —ボリビアの先住民女性による実践を事例に—

【研究の目的】(400字程度)

本研究の目的は、ボリビアの事例を通じて、貧困削減に向けた社会的連帯経済(Social Solidarity Economy, 以下 SSE)の課題と可能性を明らかにすることである。本研究では、貧困層を排除せず、環境の保全や地域文化を尊重した開発を目指す SSE が求められてきた中南米に着目し、特に貧困国であるボリビアのフェアトレード(以下 FT)に着目する。SSE に則った組織形態として、FT、社会的企業、協同組合などがある。共通の理念として、利益追求を最大目的とするのではなく人間の尊厳と環境保全のための持続可能な経済構築を目指すとなっている。しかし、生産現場では厳しい状況が続いており、SSE において貧困削減に関する実証的研究の蓄積が十分ではない。本研究は、マクロレベルの連帯経済の政策研究に加え、ミクロレベルとして先住民女性が経済的困窮から脱するために取り組んできた FT の事例研究を行うことで、貧困削減のための取組みを考察する。生産者の実態に迫る本研究は、日本や他国との比較研究にも貢献し、類似の問題に対する解決策を見出す手がかりとなりうる。

【研究の内容・方法】(800字程度)

先行研究において、生産国の FT における課題(売れる商品づくり、販路の確保など)の解決には公共政策による支援が必要と指摘されている。そのため、まずマクロレベルの政策調査として、現状把握及び課題を明らかにするために、2007 年に生産者がボリビア全国各地から集合し連帯経済・FT を推進する政策を提案した際の会議文書を手がかりに、「官民と連携する包括的仕組み(技術協力・販路確保)が必要である」という仮説を立てる。

先住民女性による FT がどのような道筋・過程を辿ってきたか、仕組みづくりの課題を把握するため生産者及び政策側にインタビュー調査を行う。主に①FT・連帯経済生産者協会及び生産者(主に先住民女性)、②先住民女性に対し雇用創出や商品づくりの支援をする NGO、③ボリビア生産開発省、④国連機関など会議関係者を中心に調査を実施する。

さらに、「どのようなメカニズムであれば貧困課題解決に繋がるか」を分析するため、ミクロレベルで先住民女性の実態や課題を検証する。本研究では、貧困分析において世帯として多様な現金獲得手段を把握し、社会的な状況について理解することで貧しさの要因を明らかにする。主に「世帯収入における FT による収入の割合」「定期的な収入か」「定期収入が得られない場合の理由」「収入が得られない時はどう家計を支えているか」を検証する。また貧困削減とは、収入だけではなく尊厳・自由の回復が不可欠なことから状況調査を行い、歴史、文化的背景と貧困との複合要因も考察する。

【結論・考察】(400字程度)

本研究の主な調査結果は以下の通りである。

第一に、FT 団体の事例から協同組合などの SSE 組織や大学・企業との技術的連携により生産体制を補完し合う方法が中間業者からの値引き交渉など競争市場によるリスクの軽減に有効であることが明らかになった。

第二に、生産者の状況に応じた輸出と国内販売のバランスが重要という点が確認された。FT は、北側諸国への販売拡大を目指す一方で、FT 認証制度における手続き、手仕事では難しい商品の均質性が求められるなど、貧困国の生産者にとって輸出のハードルは高い。北側諸国への輸出のみで運営をしている FT 団体は、国際市場の不確実性による影響を受け生産者への収入が不安定である。そのため、北側諸国の市場開拓のみに目を向けるのではなく連帯経済組織(主に協同組合)や公的機関との連携等、ネットワークの強化・活用により生産国内において複数の販路を確保することが貧困課題の解決策として必要である。しかし、公共政策

による支援がなぜ困難なのか実態に迫ることができなかったため、今後の課題としたい。